

## 第611回 新潟放送番組審議会 議事録

### — 議題 —

テレビ・ラジオ番組  
「にいがた偉人伝」第一回 小川未明編



平成 27 年 10 月 27 日

**BSN**新潟放送

## 第611回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 平成27年10月27日(火) 午前11:00～

2. 開催場所 新潟放送 本社6F

3. 委員の出席

○委員側出席者(敬称略・順不同)

委員長	松川公敏	委員	正道かほる
委員	古賀豊	委員	小島良子
委員	細田康	委員	佐藤元
委員	佐藤明		

○委員側欠席者

副委員長	相羽利子	委員	佐々木広介
委員	高井盛雄		

○放送事業者側出席者

社長	竹石松次	専務	梅津雅之
営業局長	斎藤和利	編成局長	島田好久
報道制作局長	太田志信	ラジオ本部長	高坂元己

事務局

事務局長	増山由美子	(広報部長)
事務局員	丹羽崇	(社長室長)

4. 議題

1 諮問

「青少年に見てもらいたい番組」の追加について

2 報告事項

- ・番組種別公表制度に基づく「放送番組の種別と種別毎の放送時間」の報告(4月～9月)
- ・JNN中部ブロック番組審議会委員長会議について
- ・11月の新番組・単発番組について(各局長)

### 3 審議番組

テレビ・ラジオ番組

「にいがた偉人伝」小川未明編

放送日時 テレビ 2015年10月10日(土) 午後 4:00~4:15

ラジオ 午前 11:50~12:00

### 5. 議事の概要

はじめに「青少年に見てもらいたい番組」の追加選定について竹石社長が番組審議会に諮問し、委員による審議を経て承認された。次に、島田編成局長より「放送番組の種別と放送時間・CM放送時間(4月~9月)」を報告。各局長からの11月度番組報告に続いて、「にいがた偉人伝」について審議が行われた。

～番組審議委員の主な意見・質問～

- 恥ずかしながら小川未明について詳しくは知らなかったもので、すごく楽しみだった。ラジオ番組について放送時間は短いですが、流れが分かりやすかった。番組中盤にテレビアニメの音声が使われていて、絵は見えないが内容が伝わってきた。この部分がテレビでどのように放送されたのか、見るのが楽しみになった。ただし、ラジオでは違和感を感じなかったことがテレビでは何点か感じた。テレビ番組は始まってすぐにアニメが入ったが、イメージしていた日本昔話風の絵と違い、イマドキの絵柄だった。年配の方には違和感があるかもしれないが、小学生にはこうしたタッチがずっと入って、興味を持たせる良いチャンスだと思うので、最終的には納得できた。テレビラジオとも未明の人となりを取り上げ、非常に分かり易い番組だった。
- 一番印象に残ったのはアニメの絵。想像とは違っていたが、過去の資料があまりなかったり、分からない人物を紹介したりするのに有効な手段で、とても良いアイデアだと思う。実写映像とアニメがうまく組み合っていて、違和感なく見ることができた。ラジオ番組については、テレビに比べてナレーション中心で、印象が薄く感じた。今後、計50回のシリーズとなるが、他の回がどのような作りになるのか。たとえば、今回は童話をアニメのテーマにしたが、今後は描かれる人物のアニメが出てくると思うが、実在の人物を描くとイメージがかなり違ってしまわないか？
- 50回の番組制作は大変な挑戦であるが、敬意を表する。これが達成された時、BSNはまた一つ、ステップアップすると思う。アニメは分かりやすいし、新潟といえばアニメの土地柄であることを大事にしながら頑張ってもらいたい。放送時間は長ければ良いというものではないが、時間が短い分、創意工夫が必要で、苦勞が感じられる。ラジオは本編が7分程度なので、かなりはしょらないといけないし、アニメ音声の部分がつながらない感じがするので、コメントを付けて切り替えた方が耳に入りやすい。工夫を重ねて、これからもやってほしい。

- 素晴らしい取り組みを始めたと思う。本当に良い番組。出だしからアニメを入れたが、非常に引き込まれた。取材で発掘した未明の肉声もあって、起承転結がうまく作られている。ただ、未明の越後人としての思い、坪内逍遙と出会った時のエピソードなど、もう少し見たかったので、さらに5分くらい放送時間があれば、との印象も受けた。今後、回を追うごとに熟成されると思う。ラジオで気になったのは、未明の肉声が聞きたかったが、途中からナレーションがかぶり、もったいなかった。全ての肉声を流した後で、ナレーションを入れる方法もあったのではないかな。
- 歴史の中で人物を取り上げており、子供への教育とリンクできればなお良いと思った。ラジオを聞きながらインターネットの情報サイトを見て、どちらの情報量があるか比べてみたが、ネットよりはるかに人となりや背景が絞られていながらもラジオの方が情報量が入ってきた。ラジオで紹介された未明の肉声はナレーションをかぶせざるをえないと感じた。一方、テレビは写真や未明の筆跡も紹介されていて、ラジオ以上に人柄が分かった。ただし、番組のトーンをどうするか難しい。アニメ以外は年齢が上の人を対象にしていると感じた。
- 親しみやすく良かった。アニメは子供にみてもらいたいので、こういう手法をとったのだと思うが、登場人物の服装が和服だったり、開襟シャツだったり、大正という時代考証をしっかりとする必要はないかな。未明がおとぎ話から童話、そして児童文学という流れで、文学的表現を加えていったことが偉業ではないかな。子供のための文学性という観点が描かれていなかったのが物足りなかった。ラジオは時間が短く、印象が薄い。「赤い蠟燭」の作品を紹介したテレビアニメのうち、通常なら、作品の冒頭部分が一番大事だと思うが、ラジオではその部分が使われていなかった。今後は専門家の意見を活用することも考えてほしい。
- 久しぶりに短時間の番組を審議対象としたが、テレビラジオの特性がうまく表れていて、比較しやすかった。テレビはアニメを活用していて、ナレーションが上手かった。導入部も分かりやすい構成で、ストーリー性を重視して、時間内に厭きる事なく、人物像を紹介していた。ラジオは聴覚を意識した流れが良かった。無駄のない構成だった。ナレーターは適任であり、できれば今後も代えずに同じ人が続けてほしい。これからも我々が誇ることができる新潟の偉人を取り上げ、充実した番組を作り続けてほしい。

～上越支社報道制作部・坂井悠紀記者から～

貴重なご意見をお寄せ頂き、今後も番組作りに活かしていきたいと思っております。

- アニメは50回のうち、20回で使用する予定。アニメの制作会社と番組プロデューサーがやり取りしながら制作を進めている。私も当初、アニメを見た時、イマドキすぎ

るのではないかと思い、若干修正して現在のものになった。今の子供たちに伝えたいので、行き過ぎたところは直した上で、今回はこのトーンでいこうと決断した。これからは偉人の幼少期などがアニメで紹介されるケースが多くなると思うが、写真と照らし合わせながら、数種類あるアニメのパターンからストーリーに合わせてピックアップしていくと思う。ナレーターについては、今後も統一して起用していく。また、県内で活躍されている役者の方に協力頂き、アナウンサーと違った雰囲気があるので、聴覚的にも飽きない番組作りを進めたい。子供のための文学性という観点は番組の中に反映させたつもりだったが、ご指摘の通り、説明が足りなかったと反省している。未明が故郷を愛し、次世代を担う子供を愛した点に感銘を受け、取材者として、そうした部分を番組の中で一番伝えたかった。

【文責・番組審議会事務局】

---